

伊丹市総合交通計画進捗状況報告書 【実施施策編】

平成30年度第1回伊丹市総合交通計画推進協議会資料
日 時：平成30年8月1日(水)午後2時～
場 所：防災センター301会議室

目次

報告書の見方	1
--------	---

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1－① 自転車の安全・快適な利用の促進	2
基本戦略 1－② 安全・快適で歩いて元気になるみちづくり	5
基本戦略 1－③ 目的や役割に応じた効率的な道路整備	9
基本戦略 1－④ 環境に配慮した交通まちづくり	11

基本目標 2. 交流を支える公共交通の充実

基本戦略 2－① 鉄道利便性の向上	14
基本戦略 2－② バス利便性の向上	17
基本戦略 2－③ ユニバーサルデザイン(バリアフリー化)の推進	20
基本戦略 2－④ 公共交通の利用促進	24

基本目標 3. 中心市街地の回遊性とにぎわいの向上

基本戦略 3－① 中心市街地回遊性の向上	30
基本戦略 3－② 空港を活かしたまちづくり	31
基本戦略 3－③ 中心市街地における自転車等の放置の防止	34

基本目標 4. 地域でつくる交通まちづくり

基本戦略 4－① 地域でつくる交通まちづくり	36
------------------------	----

その他

後期で着手する施策	39
-----------	----

報告書の見方

本報告書は、伊丹市総合交通計画(以下「計画」)の『Ⅱ. 実施計画編』に記載されている【実施施策】について、進捗状況等を基本戦略ごとにまとめています。また、各実施施策については、事業者ごとに実施状況について、記載しています。

報告者名を記載しています。複数の団体等で実施している施策については、併記しています。

基本戦略 1 —① 自転車の安全・快適な利用の促進

平成29年度の進捗状況について、記号で記載しています。記号の意味は、下記のとおりです。

- 「◎」 予定を上回る
- 「○」 予定通り
- 「△」 予定を下回る
- 「×」 未着手
- 「完了」 平成29年度に施策が完了した場合

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要				課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
1	a	○	市	市	自転車通行空間の整備	伊丹市自転車ネットワーク計画に基づき、安全・安心な自転車通行空間の確保及び歩道のセミフラット化※を推進する。	◆伊丹市自転車ネットワーク計画 自転車通行空間整備状況 計 10.6km 【市】 ・自転車専用通行帯:0.7km (市)昆陽池千僧線 ・車道混在:2.3km (市)新幹線北側道線ほか ・詳細設計業務 (市)昆陽車塚線 【兵庫県】 ・自転車専用通行帯:1.2km (県)山本伊丹線 (県)姥ヶ茶屋伊丹線	220,085	○	-
					◆伊丹市自転車ネットワーク計画 自転車通行空間整備状況 計 3.6km 【市】 ・自転車専用通行帯:0.6km ・部分指定:1.2km 【兵庫県】 ・部分指定:1.8km	◆伊丹市自転車ネットワーク計画 自転車通行空間整備予定 計 1.0km 【市】 ・自転車専用通行帯:0.5km (市)昆陽車塚線 【兵庫県】 ・自転車専用通行帯:0.5km (県)山本伊丹線 (県)西宮豊中線 ・詳細設計業務 (県)米谷昆陽尼崎線 ◆伊丹市自転車ネットワーク計画見直し平成31(2019)年度改定	294,810	③ 継続		

「×」 未着手
「完了」 平成29年度に施策が完了した場合

平成29年度に実施した内容・事業費・進捗状況について記載しています。

平成30年度に実施予定内容・予算・施策の方向性について記載しています。

平成30年度の施策の方向性について記載しています。方向性は、下記の①～⑧で表記しています。それぞれの表記の意味は、下記のとおりです。

平成29年度に実施した内容・事業費・進捗状況について記載しています。

平成30年度に実施予定内容・予算・施策の方向性について記載しています。

事業費・予算は、実施内容にかかる人件費を除く費用・予算について、千円単位で記載しています。事業費・予算が発生しないものは「-」、左記実施内容について事業費の算出が困難な場合等は「×」を記載しています。

平成30年度の施策の方向性について記載しています。方向性は、下記の①～⑧で表記しています。それぞれの表記の意味は、下記のとおりです。

- ①「検討」 事業実施について、検討中の場合。(事業実施に向けた調査・研究を含む。)
- ②「新規」 検討を経て、今年度より新規で実施する場合。
- ③「継続」 昨年度と同様に実施する場合。
- ④「拡大」 昨年度より規模を拡大して実施する場合。
- ⑤「縮小」 昨年度より規模を縮小して実施する場合。
- ⑥「廃止」 昨年度まで実施していた事業を廃止する場合。
- ⑦「見直し」 検討の結果、実施困難または、後期着手施策とすることが望ましいと判断した場合。
- ⑧「完了」 施策が完了した場合。

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1ー① 自転車の安全・快適な利用の促進

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費 (千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算 (千円)	平成30年度施策の方向性	
1	a	○	市	市	自転車通行空間の整備	伊丹市自転車ネットワーク計画に基づき、安全・安心な自転車通行空間の確保及び歩道のセミフラット化※を推進する。	◆伊丹市自転車ネットワーク計画 自転車通行空間整備状況 計 10.6km 【市】 ・自転車専用通行帯:0.7km (市)昆陽池千僧線 ・車道混在:2.3km (市)新幹線北側道線ほか ・詳細設計業務 (市)昆陽車塚線 【兵庫県】 ・自転車専用通行帯:1.2km (県)山本伊丹線 (県)姥ヶ茶屋伊丹線	220,085	○	-
						◆伊丹市自転車ネットワーク計画 自転車通行空間整備状況 計 3.6km 【市】 ・自転車専用通行帯:0.6km ・部分指定:1.2km 【兵庫県】 ・部分指定:1.8km	◆伊丹市自転車ネットワーク計画 自転車通行空間整備予定 計 1.0km 【市】 ・自転車専用通行帯:0.5km (市)昆陽車塚線 【兵庫県】 ・自転車専用通行帯:0.5km (県)山本伊丹線 (県)西宮豊中線 ・詳細設計業務 (県)米谷昆陽尼崎線 ◆伊丹市自転車ネットワーク計画見直し平成31(2019)年度改定予定	294,810	③ 継続	
2		○	市	市	既存駐輪場の再整備	利用しやすい駐輪場として再整備し、自転車利用者の自律を促す。	東有岡自転車駐車場及び船原自転車駐車場において二段式ラック更新工事を実施した。	46,142	○	-
						・阪急伊丹駅前地下自転車駐車場管理機器更新工事 ・JR伊丹駅前第1自転車駐車場ラック更新工事	実施予定なし	-	③ 継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1－① 自転車の安全・快適な利用の促進

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費 (千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算 (千円)	平成30年度施策の方向性	
3		○	警察署 / 交通安全協会 / 市	市	自転車運転交通ルールの周知や通行マナー向上に向けた情報提供	自転車交通安全教室を継続して実施する。	伊丹警察署、伊丹交通安全協会と協力して、一般市民及び小・中・高等学校の児童・生徒を対象に、自転車交通安全教室を実施した(参加人数:4,477人)。また、積極的に事業所(企業等)での自転車交通安全教室を実施した(参加人数:1,217人)。	299	○	-
						伊丹警察署、伊丹交通安全協会と協力して、一般市民及び小・中学校の児童・生徒を対象に、市主催の自転車交通安全教室を実施(参加人数:3,843人)	伊丹警察署、伊丹交通安全協会と協力して、一般市民、小・中・高等学校の児童・生徒及び事業所(企業等)を対象とした自転車交通安全教室を実施する。	615	③ 継続	
				警察署	自転車運転交通ルールの周知や通行マナー向上に向けた情報提供	自転車交通安全教室を継続して実施する。	・伊丹市、伊丹警察署、伊丹交通安全協会と連携して、市民及び小・中学校の児童・生徒を対象に自転車交通安全教室等を実施した。 (参加人員 21,987人) ・市民が利用する施設の駐輪場や高齢者の利用が多い施設における、待ち受け型の交通安全教室や啓発活動を推進した。 (参加人員 50,894人)	×	○	
						伊丹市、伊丹警察署、伊丹交通安全協会と連携して、市民及び小・中学校の児童・生徒を対象に自転車交通安全教室を実施(参加人数:13,176人)	・伊丹市、伊丹警察署、伊丹交通安全協会と連携して、市民及び小・中学校の児童・生徒を対象に自転車交通安全教室等を継続実施する。 ・市民が利用する施設の駐輪場や高齢者の利用が多い施設における、待ち受け型の交通安全教室や啓発活動等を継続して推進する。	×	③ 継続	
再掲 56	b	○	県 / 市	県 / 市	既存施設を活用した駐輪場整備や機械式路上駐輪場(路上駐輪ラック)の設置	阪急伊丹駅周辺駐輪対策として、ペDESTリアンデッキ等既存施設を活用した駐輪場整備を検討する。 阪急伊丹駅及びJR伊丹駅周辺において機械式路上駐輪場を設置し、買い物客など短時間駐輪する場合の利便性向上を図る。また、県道に対しても県と連携して、機械式路上駐輪場の設置をめざす。	◆阪急伊丹駅周辺の駐輪ラックの新設 ・駅東側(中央1丁目1番地) 46台新設 ・新設にあたり防火水槽等改修工事	3,882	○	-
						実施なし	平成29年度以降、県道周辺地域の放置自転車台数が一定数減少していることから、土塚土木事務所との協議も踏まえ、機械式路上駐輪場の設置については、今後の周辺地域の放置自転車状況を勘案しながら、必要性に応じて検討を行うこととする。	8	① 検討	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1－① 自転車の安全・快適な利用の促進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
4		○	市	市	レンタサイクルの推進	日常生活における自動車から自転車・公共交通への転換を図るとともに、観光客にとっても利便性の高い交通手段であるレンタサイクルを推進する。	レンタサイクルの実施拡大に向けて、調査・研究を実施した。	-	△	
						JR伊丹駅において、駅りん君(JR西日本実施)サービスの提供	レンタサイクルだけではなく、シェアサイクルの実施の可能性について調査・研究する。	-	① 検討	
5		○	市	市	自転車安全利用啓発指導員※の委嘱による指導、啓発の実施	各地域でボランティアの指導員を委嘱し、自転車の安全利用に関する指導、啓発を実施する。	地域での活動に加え、交通安全啓発イベント等での活動を実施した。また、指導員の増員に向けて、地域自治組織への呼びかけを行った。	1	△	指導員の増員とスキルアップ
						実施なし	指導員のスキルアップのため、交通安全啓発イベント等への参加を促す。また、指導員の増員に向けて、地域や事業所への呼びかけを行う。	18	③ 継続	
6		○	警察署	警察署	警察による指導強化	自転車利用者に対する指導強化を、警察と連携して取り組んで行く。	自転車の街頭指導及び安全利用啓発活動について、伊丹市、伊丹交通安全協会と連携を図り、継続実施した。 ・JR伊丹駅東側の連絡橋において、自転車の安全利用啓発キャンペーンを実施した。(4/13、6/2他) ・悪質、危険性の高い違反や交通事故で過失率の高い場合は検挙した。	×	○	
						春と秋の全国交通安全運動の他、伊丹市、伊丹交通安全協会と連携して年間7回の自転車街頭指導及び自転車安全利用啓発活動を実施した。	自転車の街頭指導及び安全利用啓発活動について、伊丹市、伊丹交通安全協会と連携を図り、継続実施する。 ・三軒寺前広場において、自転車街頭指導及び無料点検を実施(4/12) ・阪急伊丹駅周辺等において自転車安全利用キャンペーンを実施(5/1、5/9、5/18、5/25、6/1、6/2)していく。 ・悪質、危険性の高い違反や交通事故で過失率の高い場合は検挙していく。	×	③ 継続	
7		○	市	市	損害賠償保険の加入推奨	自治会等を通じて損害賠償保険の加入を推奨する。	HP、自転車交通安全教室等で加入を推奨した。	×	○	
						実施なし	HP、自転車交通安全教室等で引き続き加入を推奨する。	×	③ 継続	
再掲 55	a	○	市	市	地下(地上)ハイテク駐輪場の整備	JR伊丹駅周辺において、地下ハイテク駐輪場を整備するとともに、他にも整備可能な場所がないか検討する。	伊丹機械式自転車駐車場の整備を完了した。	150,180	○	
						実施なし	他の整備可能な場所について、検討する。	-	① 検討	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1ー② 安全・快適で歩いて元気になるみちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
8	a	○	市	市	安全・安心見守りカメラ、 ビーコン※の設置	市内の道路上に1,000台のいわゆる防犯カメラとビーコン受信機を設置する。カメラ設置を明示することで、犯罪等の抑止を図るとともに、発信機所持者の位置情報を保護者へ送るインフラ※整備を行う。将来はビーコンを活用し、スタンブラリーなどにも活用を図る。	安全・安心見守りネットワークの運用を継続して実施した。 また、「まちなかミマモルメ」の加入促進策として、認知症高齢者や障がい者(児)、小学1年生を対象に、利用料金を無償とするとともに、アプリをバージョンアップした。	33,932	○	バスロケーションシステムの計画に進捗が見られず、それに伴う市バスに対する検知機能付加が進まない。
						市内全17小学校区で開催された地域懇談会で、安全・安心見守りカメラの設置の可否について意見聴取した。当会において、カメラを活用して徘徊する認知症高齢者の捜索要望が挙げられた。その結果、道路を中心に1,000台の安全・安心見守りカメラとビーコン受信器の設置を決定した。	安全・安心見守りネットワークの運用を継続して実施する。 また、「まちなかミマモルメ」の加入促進策として、認知症高齢者や障がい者(児)、小学1年生を対象に、利用料金を無償とするともに、自動販売機を活用して、検知箇所を2カ所程度増設する。	29,504	③ 継続	
9	b		市	市	歩いて元気になるみちづくりの推進(ストリートファニチャー※等の整備)	歩行者の休憩のためのベンチやウォーキングコースの案内看板の設置、目標となる施設の距離の表示、遊歩道の活用推進、ウォーキングポイント制度の継続など、歩いて楽しく元気になるみちづくりをめざす。	設置候補地の調査を行った。	-	△	-
						実施なし	調査結果を精査し、設置計画を作成する。	-	① 検討	
10		○	市	市	歩行者通行空間の整備 (歩道整備、カラー舗装等)	猪名川左岸線等で整備予定。 伊丹市自転車ネットワーク計画に基づき、安全・安心な自転車通行空間の確保及び歩道のセミフラット化※、ガードレールの整備を併せて実施する。	(都)猪名川左岸線、市道昆陽池千僧線の整備を実施した。	121,547	○	-
						(都)猪名川左岸線、市道昆陽5429号線、市道昆陽池鋳物師線の整備を推進した。	実施予定なし	-	③ 継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1ー② 安全・快適で歩いて元気になるみちづくり

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費 (千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算 (千円)	平成30年度施策の方向性	
11		○	警察署 / 市	市	通学路の安全対策	伊丹市通学路安全推進会議において、地元要望書により現地検証した結果、対策が必要とされた箇所について、通学路安全対策推進会議を組織し、ガードレールの整備等継続的に対策を実施する。 広畑・中野・北河原・寺本・北野・御願塚地区でのゾーン30※の導入に合わせて、ハンプ・クランク※等物理的対策を推進する。	伊丹市通学路安全対策推進会議設置要綱に基づき、学校や地元から要望書等をもとに伊丹市通学路安全対策推進会議を開催した。 グリーンベルトの設置や路側帯の新設等により、通学路の安全対策を実施した。	×	○	
						通学路の交通安全確保を着実かつ効果的に実施するため、伊丹市通学路安全対策推進会議設置要綱を策定し、会議を年間9回開催した。	伊丹市通学路安全対策推進会議設置要綱に基づき、学校や地元から要望書等をもとに伊丹市通学路安全対策推進会議を開催する。	×	③ 継続	
				警察署	通学路の安全対策	伊丹市通学路安全推進会議において、地元要望書により現地検証した結果、対策が必要とされた箇所について、通学路安全対策推進会議を組織し、ガードレールの整備等継続的に対策を実施する。 広畑・中野・北河原・寺本・北野・御願塚地区でのゾーン30※の導入に合わせて、ハンプ・クランク※等物理的対策を推進する。	毎月、伊丹市教育委員会、道路管理者、伊丹警察署による伊丹市通学路安全対策推進会議を開催し、通学路の改善を図った。 ・歩行者用規制見直し 1 ・横断歩道新設 2 ・横断歩道見直し 1 ・一時停止新設 1	×	○	
						年間9回、伊丹市教育委員会、道路管理者、伊丹警察署による伊丹市通学路安全対策推進会議を開催し、通学路の改善を図った。 ・横断歩道新設 3 ・一時停止新設 1 ・歩行者用灯器新設 1 ・歩車分離式信号への変更 1 ・30Km/h規制 1	毎月、伊丹市教育委員会、道路管理者、伊丹警察署による伊丹市通学路安全対策推進会議を開催し、通学路の改善を図っている。 ・横断歩道移設予定 1 今後も学校、保護者等の要望意見を踏まえて、通学路の安全確保を図っていく。	×	③ 継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1ー② 安全・快適で歩いて元気になるみちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
12		○	市	市	介護保険制度の福祉機器レンタル、障害者制度の補装具給付制度の周知	歩行・移動が困難な高齢者や障がい者を対象に、車いすや電動車いすのレンタルや給付ができる制度の周知に努め、社会参加を促す。	◆介護保険制度に基づき福祉用具の貸与及び特定福祉用具購入費の支給を実施(要した費用の9割もしくは8割相当額を支給、支給限度額あり) 【平成29年度計画値】 ・福祉用具貸与 34,272件・特定福祉用具購入 756件 【平成29年度実績値】 ・福祉用具貸与 36,178件・特定福祉用具購入 755件 ◆身体機能低下を補完するため、使用する補装具の購入・修理費用の一部を支給する補装具給付制度の周知を図るため、引き続き「福祉の手引き」及びホームページを活用。 【平成29年度実績値】 補装具給付 290件 ◆引き続き、社会福祉協議会の事業として、歩行・移動が困難な市民を対象に車いすの貸し出しを実施。 【平成29年度実績】306台	441,775	○	
						◆介護保険制度に基づき福祉用具の貸与及び特定福祉用具購入費の支給を実施(要した費用の9割もしくは8割相当額を支給、支給限度額あり) 【平成26年度実績】 ・福祉用具貸与 27,903件 ・特定福祉用具購入 824件 ◆身体機能低下を補完するため、使用する補装具の購入・修理費用の一部を支給する補装具給付制度の周知を図るため、障害福祉制度について紹介する冊子「福祉の手引き」及びホームページに記載し、制度の周知を実施 【平成26年度実績】 ・補装具給付 280件 ◆社会福祉協議会では、障害者福祉センターにて車いすの貸し出しを実施。 【平成26年度実績】250台	◆介護保険制度に基づき福祉用具の貸与及び特定福祉用具購入費の支給を実施(要した費用の9割、8割若しくは7割相当額を支給、支給限度額あり) 【平成30年度計画値】 ・福祉用具貸与 36,420件 ・特定福祉用具購入 900件 ◆身体機能低下を補完するため、使用する補装具の購入・修理費用の一部を支給する補装具給付制度の周知を図るため、引き続き「福祉の手引き」及びホームページを活用する。 【平成30年度計画値】 補装具給付 347件 ◆引き続き、社会福祉協議会の事業として、歩行・移動が困難な市民を対象に車いすの貸し出しを実施する。	468,382	③ 継続	
13			市	交通局	バス停の改良(上屋およびベンチの設置)	バス停の上屋やベンチ、従来型ベンチでは道路占有許可基準※を満たさないバス停での省スペースの収納式ベンチの設置を進め、バス待ち環境の改善を図るとともに、歩行者の休憩場所として活用する。	収納式ベンチ1基を設置した。 上屋2基を設置した。	3,236	○	
						収納式ベンチを年1～2カ所設置し環境改善を図っている。 上屋についても新設及び建替え、修繕を行っている。	収納式ベンチ1基を設置予定。 上屋1基を設置予定。	1,712	③ 継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1ー② 安全・快適で歩いて元気になるみちづくり

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費(千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算(千円)	平成30年度施策の方向性	
再掲46	a		市	市	中央伊丹線のフルモール化の検討	(都)中央伊丹線について、地域の合意形成を図りながら実施について検討する。	実施なし	-	×	
						実施なし	計画内で示されている通りの中央伊丹線のフルモール化は実施困難なため、後期着手に向け、内容の精査を行う。	-	⑦見直し	
再掲47	b		市	市	無電柱化による快適な歩行空間の整備(基本戦略3ー①参照)【再掲】	道路の電柱をなくし電線等を地下等にまとめて収容することで、安全で快適な歩行空間を確保する。 都市計画道路※整備事業と併せて検討する。 中心市街地の4極2軸路線は、伊丹酒蔵通りをはじめ景観重点地区に指定されており、地域及び電線管理者の合意形成を図りながら実施に向けて協議する。	市道宮ノ前4085線外3路線電線共同溝整備事業の設計を実施した。	11,059	○	-
						実施なし	市道宮ノ前4085号線の整備を実施する。	30,400	③継続	
14			市	市	街路樹の適正な管理	伐採・植栽も含め、街路樹の適正な管理を継続的に実施していく。	街路樹の高木及び低木の剪定、除草を実施 北本町伊丹線ほか、緑ヶ丘3120号線にて高木及び低木の補植を実施	61,055	○	-
						街路樹の高木及び低木の剪定、除草を実施	街路樹の高木及び低木の剪定、除草を実施 寺本山田5437号線ほかにて高木及び低木の補植を実施	66,820	③継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1 ー③ 目的や役割に応じた効率的な道路整備

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費(千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算(千円)	平成30年度施策の方向性	
15	a	○	市	市	都市計画道路※網の見直し	長期末着手の都市計画道路において、県が定めたガイドラインに基づき、近年の社会情勢の変化や、自転車や歩行者の通行状況も含めた沿道環境を考慮して、今ある道路の機能を有効に活用しつつ、都市計画道路網の見直しを実施する。 都市計画道路網の見直しについて、委託業務を発注した。	平成28年度に実施完了 平成28年度に実施完了	- -	完了 ⑧完了	-
16	b	○	市	市	都市計画道路整備プログラムによる効率的で効果的な道路整備の推進	都市計画道路網の見直しと並行し、現行の都市計画道路整備プログラムを改定し、計画に基づき整備する。 都市計画道路整備プログラムの改定について、委託業務を発注した。	継続事業である(都)猪名川左岸線の整備を実施した。 (都)山田伊丹線の詳細設計等を実施する。	59,604 30,000	○ ③継続	-
17	c	○	県/市	県/市	名神湾岸連絡線等の整備推進に向けた働きかけ	広域的なネットワーク形成に向けた働きかけを行う。 平成27年度中の関空・伊丹空港のコンセッション実現に向けて手続きが進められ、神戸空港を含めた3空港一体運用の実現性が高まった。 【事業進捗】 平成25年度より計画段階評価に着手しており、平成26年度は、評価に際し、アンケート調査、オープンハウスの開催等により、地域及び道路交通について意見聴取を実施。	速やかな都市計画決定手続き着手に向けた詳細ルート・構造の検討促進等を要望。 【事業進捗】 兵庫県幹線道路協議会において、2車線で計画、周辺ネットワークとの接続(名神高速、神戸線の大阪方向、湾岸線の両方向、西宮浜の出入路)、平成30年度から都市計画・環境アセスメント手続き着手等について合意。 引き続き、あらゆる機会をとらえて、詳細ルート・構造等の検討促進を働きかける。 【事業進捗】 都市計画・環境アセスメント手続きに着手する。	- -	○ ③継続	-
18		○	市	市	橋梁の予防保全による安全性の確保と効率的な維持管理	橋梁の予防保全を実施する。 耐震診断を実施し、補修と併せた耐震補強を検討する。 橋梁の補修工事を実施 橋梁数:4橋 橋梁の補修設計を委託 橋梁数:26橋	橋梁の補修工事を実施 橋梁数:28橋 橋梁の補修設計を委託 橋梁数:38橋 (内7施設耐震設計を含む) 橋梁の定期点検を委託 橋梁数:146橋 橋梁の補修工事を実施 橋梁数:37橋(内5施設耐震工事含む) 橋梁の補修設計を委託 橋梁数:21橋(内8施設耐震設計を含む) 橋梁長寿命化修繕計画の見直しを委託	215,398 297,000	◎ ④拡大	-

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1 ー③ 目的や役割に応じた効率的な道路整備

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費(千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算(千円)	平成30年度施策の方向性	
19		○	市	市	幹線道路の整備、ボトルネック※箇所の解消	生活道路における安全安心な通行空間を確保するため、ボトルネック箇所等の道路整備を実施する。 橋梁・トンネル・舗装等の道路施設点検を実施する。 市道池尻寺本線、鴻池1131号線の整備を実施した。	市道山田野間北線、東有岡里道の整備を実施した。 市道松ヶ丘3253号線、市道緑ヶ丘中央線の整備の進捗を図った。 市道松ヶ丘3253号線、市道緑ヶ丘中央線、市道春日丘4059号線の整備を実施する。	61,112 29,261	○ ③ 継続	-
20			県	県	渋滞交差点の解消	北村交差点、南町4交差点の整備を実施する。	【北村交差点】 猪名川左岸線整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・桑津工区 道路拡幅工事(延長 L=280m) 【南町4丁目交差点】 (一)西宮豊中線((都)園田西武庫線)の整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・御園工区 JRアンダー工事 ・藻川工区 橋梁下部工事	×	○	
						【北村交差点】 猪名川左岸線整備(市施工)により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・桑津工区(平成23年度～) H26年度:用地購入、物件補償 【南町4丁目交差点】 (一)西宮豊中線((都)園田西武庫線)の整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・御園工区(平成8年度～) H26年度:調査 ・藻川工区(平成22年度～) H26年度:橋梁下部工事	【北村交差点】 平成29年度に猪名川左岸線の整備が完了し、今後は当該交差点付近の渋滞状況を勘案しながら、必要に応じた対策を検討する。 【南町4丁目交差点】 (一)西宮豊中線((都)園田西武庫線)の整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・御園工区 JRアンダー工事 ・藻川工区 橋梁上下部工事 右岸アプローチ部下部工事	×	③ 継続	
			市	市	渋滞交差点の解消	道路の利用状況や渋滞状況を把握しながら、渋滞交差点解消に向けた整備を実施する。	実施予定なし	-	×	-
						市道池尻寺本線の整備を実施した。	実施予定なし	-	③ 継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1－④ 環境に配慮した交通まちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
21		○	市	市	低公害車、低燃費車の利用促進の啓発	低公害車の普及・啓発を推進し、自動車排出ガスによる大気汚染を防止して、市民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	公用車における低公害車の導入を促した。	×	○	一般的に低公害車の定義があいまいであり、また、年々車の性能が向上していることから、低公害車と低公害車でない車の区別をすることが難しい。
						公用車における低公害車の導入を促した。	公用車における低公害車の導入を促す。	×	③ 継続	
22		○	市	市	道路施設の省エネ化	自然エネルギーを利用した道路施設の導入や照明のLED化を推進する。	新たな取り組みなし。引き続きLED街路灯の維持管理を実施。	×	○	-
						街路灯のLED化を実施 LED化灯数:1,325灯	新たな取り組みなし。引き続きLED街路灯の維持管理を実施。	×	③ 継続	
23		○	公共交通事業者/市	交通局	運輸事業者のグリーン経営※の推進	グリーン経営の周知と推進を図る。	アイドリングストップ・エコドライブの励行、環境に適合した認定車で寿命が長く消費電力の少ないHIDヘッドランプを装備した4両を新規導入し、寿命が長く消費電力の少ないLEDヘッドランプを20台に導入した。エコキャップ運動、グリーンカーテン、市内一斉清掃などに取り組んだ。	×	○	アイドリングストップ・エコドライブの励行に取り組んでいるが、近年の猛暑等の外部要因から、お客様の快適な車内空間を維持する必要があるため、燃費向上が難しい環境となっている。
						「グリーン経営推進マニュアル」に基づき、エコドライブの実施とといった7つの項目ごとに取組基準を示し、この取組により環境保全にとどまらず、『燃費の向上』、『交通事故・車両事故の削減』、『職場のモラルや士気の向上』に加え、『社会的評価の向上』につなげていくことを目指している。	アイドリングストップ・エコドライブの励行。前年度の更新車両より燃費が約1%向上した更新車両5台を導入予定。エコキャップ運動、市内一斉清掃などに取り組む予定。	×	③ 継続	
				阪急バス	運輸事業者のグリーン経営※の推進	グリーン経営の周知と推進を図る。	引続き、「エコドライブコンテスト」6・11月に実施した。	-	○	-
						伊丹営業所:平成20年6月20日に認証取得。 平成20年より、営業所毎の燃費改善率を競う「エコドライブコンテスト」を6・11月に実施している。	現在の取組みを継続する。	-	③ 継続	
				阪神バス	運輸事業者のグリーン経営※の推進	グリーン経営の周知と推進を図る。	実施なし	-	×	-
						実施なし	グリーン経営の認証取得については引き続き検討するが、認証取得に至らずとも、エコドライブの推進や社としての環境保全の取組については推進していく。	-	① 検討	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1－④ 環境に配慮した交通まちづくり

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費(千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算(千円)	平成30年度施策の方向性	
24		○	市	市	エコドライブ、アイドリングストップ等環境に配慮したクルマの使い方の普及啓発	公共交通の利用、エコドライブなど環境に配慮した交通のあり方について普及啓発を行います。	阪神地域7市(神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市)で構成する「阪神地域ノーマイカーデー推進連絡会」において、ノーマイカーデーやアイドリングストップ運動等の環境に配慮した自動車運転の普及を広域的に推進した。	×	○	継続して啓発を行っているが、効果を把握することが難しい。
						阪神地域7市(神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市)で構成する「阪神地域ノーマイカーデー推進連絡会」において、ノーマイカーデーやアイドリングストップ運動等の環境に配慮した自動車運転の普及を広域的に推進した。	阪神地域7市(神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市)で構成する「阪神地域ノーマイカーデー推進連絡会」において、ノーマイカーデーやアイドリングストップ運動等の環境に配慮した自動車運転の普及を広域的に推進する。	×	③ 継続	
25			市	市	環境負荷の少ない道路工事や環境に配慮した舗装(低騒音・排水・透水性・遮熱性等)の推進	道路工事に際して、環境負荷の少ない工法等の導入を検討し、都市計画道路整備事業では、引続きヒートアイランド対策など環境に配慮した舗装を実施する。	(都)猪名川左岸線、市道昆陽池千僧線の整備を実施した。	121,547	○	-
						(都)猪名川左岸線、市道昆陽5429号線、市道昆陽池鋤物師線の整備を推進した。	市道宮ノ前4085号線、市道昆陽車塚線の整備を実施する。	174,410	③ 継続	

基本目標 1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

基本戦略 1－④ 環境に配慮した交通まちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 20			県	県	渋滞交差点の解消【再掲】	北村交差点、南町4交差点の整備を実施する。	【北村交差点】 猪名川左岸線整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・桑津工区 道路拡幅工事(延長 L=280m) 【南町4丁目交差点】 (一)西宮豊中線((都)園田西武庫線)の整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・御園工区 JRアンダー工事 ・藻川工区 橋梁下部工事	×	○	
						【北村交差点】 猪名川左岸線整備(市施工)により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・桑津工区(平成23年度～) H26年度:用地購入、物件補償 【南町4丁目交差点】 (一)西宮豊中線((都)園田西武庫線)の整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・御園工区(平成8年度～) H26年度:調査 ・藻川工区(平成22年度～) H26年度:橋梁下部工事	【北村交差点】 平成29年度に猪名川左岸線の整備が完了し、今後は当該交差点付近の渋滞状況を勘案しながら、必要に応じた対策を検討する。 【南町4丁目交差点】 (一)西宮豊中線((都)園田西武庫線)の整備により渋滞交差点を解消 (実施内容) ・御園工区 JRアンダー工事 ・藻川工区 橋梁上下部工事 右岸アプローチ部下部工事	×	③ 継続	
			市	市	渋滞交差点の解消【再掲】	道路の利用状況や渋滞状況を把握しながら、渋滞交差点解消に向けた整備を実施する。	実施予定なし	-	×	
						市道池尻寺本線の整備を実施した。	実施予定なし	-	③ 継続	

基本目標２．交流を支える公共交通の充実

基本戦略２－① 鉄道利便性の向上

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 2		○	市	市	既存駐輪場の再整備【再掲】	利用しやすい駐輪場として再整備し、自転車利用者の自律を促す。	東有岡自転車駐車場及び船原自転車駐車場において二段式ラック更新工事を実施した。	46,142	○	
						・阪急伊丹駅前地下自転車駐車場管理機器更新工事 ・JR伊丹駅前第1自転車駐車場ラック更新工事	実施予定なし	-	③継続	
26			公共交通事業者／市	市	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	阪急伊丹駅前の市営バス総合案内板をユニバーサルデザインに対応した総合的な情報を取扱うデジタルサイネージへリニューアルした。	19,440	○	-
						JR伊丹駅構内に市営バス時刻表を表示するデジタルサイネージを1機設置済み	新しい取組みについては、実施予定なし。	-	③継続	
				交通局	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	阪急伊丹駅前の市営バス総合案内板を阪急伊丹駅前総合案内版(デジタルサイネージ)としてリニューアルするにあたり、市バス情報を提供した。	×	○	-
						阪急伊丹駅前の市営バス総合案内板の経年劣化、システムの老朽化により故障が目立っている。 阪急伊丹駅前案内所職員による、行き先、乗り場案内を行っている。 また、JR伊丹駅においては、観光物産ギャラリーにおいて、バスについての案内等の対応をいただいている。	コンテンツの更新等があった際には、適宜対応していく。	×	③継続	
				西日本旅客鉄道	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいる。	×	○	-
						国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいる。	国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいく。	×	③継続	
				阪急電鉄	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	全てのお客様が利用しやすい情報提供に努めている。	×	○	-
						全てのお客様が利用しやすい情報提供に努めている。	全てのお客様が利用しやすい情報提供に努めていく。	×	③継続	

基本戦略２－① 鉄道利便性の向上

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
26			公共交通事業者／市	阪急バス	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	実施なし	-	×	
						実施なし	調査研究を行う。	-	① 検討	
				阪神バス	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	各停留所の時刻表にバスロケーションシステムのHPにリンクしたQRコードを掲出し、運行情報や乗り換え情報にアクセスしやすくなるよう改善した。	-	○	デジタルサイネージを設置した場合の維持管理コスト負担
						実施なし	停留所へのデジタルサイネージ設置については、市内の停留所において設置に適した場所等があるか、引き続き検討する。	-	③ 継続	
				エアポート	乗換案内等の充実(デジタルサイネージの設置等)	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者、障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	改修工事の影響により乗り換え動線が変更となった箇所については、視認性を優先させた仮設サインの設置などをすすめた。また、先行オープンした中央エリアには到着ロビーなどにデジタルサイネージの設置を計画し、情報提供ができるよう調整をすすめた。	×	○	
						空港館内全体において、多言語化やユニバーサルデザインを活用したサイン表示を実施。到着ロビーにおいては、デジタルサイネージを利用した地上交通機関への乗り換え情報の充実を図った。	平成30年度も改修工事の進捗に合わせて、サインやデジタルサイネージの設置を行うとともに、先行オープン後の状況なども参考に引き続き仮設サインなどを設置することで、工事により利便性が低下しないよう、空港全体のサインの検討を行う。	×	③ 継続	

基本戦略 2-① 鉄道利便性の向上

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費(千円)	平成29年度進捗状況	課題等	
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算(千円)	平成30年度施策の方向性		
27				旅客鉄道	西日本	ホームでの安全性の確保	鉄道事業者と連携して、市内各駅での安全性の確保をめざす。	ハード、ソフト面に対策を行った。具体的には、内方線付き点状ブロックの設置や、ホームのベンチの設置方向の変更を実施した。	×	○	-
						ハード、ソフト面に対策を行っている。	ハード、ソフト面に対策を行っていく。	×	③継続		
				鉄道事業者	阪急電鉄	ホームでの安全性の確保	鉄道事業者と連携して、市内各駅での安全性の確保をめざす。	伊丹線 伊丹駅・塚口駅3号線(頭端駅)線路終端部側の列車の止まらない箇所への固定柵設置 【伊丹駅1号線ホーム】 ・固定柵設置:5m ・誘導タイル(内方線共)貼り替え:15.6m 【伊丹駅2号線ホーム】 ・固定柵設置:5m ・誘導タイル(内方線共)貼り替え:17.1m 【塚口駅3号線ホーム】 ・固定柵設置:7.5m ・誘導タイル(内方線共)貼り替え:2.4m	5,468	◎	-
						市内3駅(稲野駅・新伊丹駅・伊丹駅)とも、内方線付き点状ブロックについて整備済み	ホーム先端部へのCPライン設置検討 「駅・ホーム縁端部視認性向上のためのWG」の動向を踏まえ検討 (塚口駅3号線にて試験設置済み)	-	①検討		

基本目標２．交流を支える公共交通の充実

基本戦略２－② バス利便性の向上

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
29	a		公共交通事業者／市	市	都市間交通のための新たなバス路線の検討	市民の移動に合わせた都市間交通としての、新たなバス路線を検討する。	伊丹市北西部から阪急武庫之荘・JR立花駅間の阪神バス新路線の運行開始(平成30年3月24日)までの必要な調整を行った。	-	○	
						実施なし	市内各バス事業者等と新たなバス路線の実施に向けて、必要な働きかけや調整を行う。	-	① 検討	
				交通局	都市間交通のための新たなバス路線の検討	市民の移動に合わせた都市間交通としての、新たなバス路線を検討する。	乗降調査を行い次期ダイヤ改正に向けて検証した。	×	○	他市域への乗り入れについては、新たな停留所の確保等で難しい点がある。
						乗降調査を行い次期ダイヤ改正に向けて検証する。	市の総合交通計画に則り、乗降調査を行い次期ダイヤ改正に向けて検証を継続。	×	③ 継続	
				阪急バス	都市間交通のための新たなバス路線の検討	市民の移動に合わせた都市間交通としての、新たなバス路線を検討する。	調査研究を行った。	-	○	
						実施なし	調査研究を行う。	-	① 検討	
				阪神バス	都市間交通のための新たなバス路線の検討	市民の移動に合わせた都市間交通としての、新たなバス路線を検討する。	H30.3.24付けダイヤ改正において、伊丹市北西部(西野)から尼宝線を経由し、尼崎市内(阪急武庫之荘駅およびJR立花駅)に至る新たなバス路線を開設した。	-	◎	新路線における利用促進
						実施なし	開設した新路線について、運行開始後の状況を踏まえたダイヤの微調整等の実施について検討する。	-	③ 継続	
30	b	○	市	市	バスロケーションシステム※の導入	利用者へ運行情報を提供し、バス待ち環境を向上させる為のシステムを導入する。	市営バスへのバスロケーションシステムの導入に向けた検討を行ったが、イニシャルコストとランニングコストが高額となるため、現状では費用対効果の観点から、市営バスへ導入可能なシステムは見当たらなかった。	-	△	
						実施なし	引き続き、バスロケーションシステムの導入に向けた研究を行うが、費用対効果の面で、計画前期期間での導入は困難な状況である。	-	⑦ 見直し	

基本目標 2. 交流を支える公共交通の充実

基本戦略 2-② バス利便性の向上

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
31	c		市	市	サイクル&バスライド※駐 輪場の整備	市バス停留所隣接の駐輪場設備を整備する。	駐輪場の候補地および整備内容について検討した。	-	△	
						8ヶ所 約345台	検討した候補地について具体的な調整を行う。	-	① 検討	
再掲 51	a	○	市	市	JR伊丹駅および阪急伊 丹駅と伊丹空港を結ぶバ スの利便性向上(「伊丹 空港ライナー」の運行)とP R(基本戦略3-②参照) 【再掲】	鉄道駅、バスターミナルのインバウンド※対策として乗り場案内、時刻表等を示し、バス停の案内についてもわかりやすい表示に改良する。 空港利用者にとって利便性の高い車両によってJR伊丹駅および阪急伊丹駅と空港を結ぶことにより、周辺地域のにぎわいづくりにつなげる。	空港アクセスバスのPRとして、下記の事項を実施した。また、空港アクセスバスの利用実態調査を実施し、利用者ニーズの把握・分析を行った。 ①ラッピングした市営バスの運行 ②JR・阪急伊丹駅周辺の歩道橋への横断幕設置 ③市バスへの前幕設置 ④オリジナル絆創膏の作成、配布 ⑤ポケット時刻表の配付	1,242	○	-
						空港アクセスバスのPRとして、下記事項を実施した。 ①ラッピングした市営バスの運行 ②潜在的な需要が見込まれる尼崎市北部等へのチラシ・ポスターの配布 ③新関西国際空港株式会社と連携して、空港ターミナル内へポスターを掲示	利用実態調査に基づき、効果的な空港アクセスバスのPRを行う。また、「伊丹空港ライナー」の運行について検討する。	1,245	③ 継続	
32			市 / 市 交通 局		需要に応じたバスネットワ ークおよび運行ダイヤの 見直し	走行環境や利用実態の変化に対応した効率の良いダイヤへ見直す。	走行環境や利用実態の変化に応じたダイヤへ一部改正した。	×	○	限られた車両数と人員の中で、需要の見込まれる新規路線の設置には需要の少ない既存路線の整理を同時に検討しなくてはならない。
						乗降調査を行い次期ダイヤ改正に向けて検証する。	市の総合交通計画に則り、乗降調査を行い次期ダイヤ改正に向けて検証を継続。	×	③ 継続	

基本目標 2. 交流を支える公共交通の充実

基本戦略 2-② バス利便性の向上

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 13			市	交通局	バス停の改良(上屋およびベンチの設置)【再掲】	バス停の上屋やベンチ、従来型ベンチでは道路占有許可基準※を満たさないバス停での省スペースの収納式ベンチの設置を進め、バス待ち環境の改善を図るとともに、歩行者の休憩場所として活用する。	収納式ベンチ1基を設置した。 上屋2基を設置した。	3,236	○	
						収納式ベンチを年1～2カ所設置し環境改善を図っている。 上屋についても新設及び建替え、修繕を行っている。	収納式ベンチ1基を設置予定。 上屋1基を設置予定。	1,712	③ 継続	
33			市	市	市営バスへの運営支援のあり方の検討	今後も路線を維持していくために必要な支援のあり方を検討する。	補助基準に基づき補助を実施。 ・営業係数125以上の不採算路線については収支不足額の1／2を一般会計から補助。 また、補助基準の見直しを行った。 平成29年度 117,888千円	117,888	○	
						補助基準に基づき補助を実施。 ・営業係数125以上の不採算路線については収支不足額の1／2を一般会計から補助 平成26年度 126,190千円	民営バス事業者が市営バスの系統を運行するとしても、赤字となる系統の経常収支差額を補助する新しい補助基準に基づき、補助を実施する。 平成30年度 143,880千円	143,880	③ 継続	

基本戦略２－③ ユニバーサルデザイン(バリアフリー化)の推進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
35		○	市	市	高齢者、障がい者等の公共交通運賃減免や高齢者バスの維持	高齢者・障がい者等に市バスの無料乗車証および福祉タクシーの基本料金を助成するタクシーチケットを交付し、外出支援および経済的負担軽減を行う。	引き続き、高齢者や障がい者等に対して、伊丹市バスが無料になる特別乗車証または福祉タクシーの基本料金を助成するタクシー利用券を交付。 (交付人数：市バス特別乗車証31,485人・タクシー利用券1,492人)	610,714	○	-
						高齢者や障がい者等に対して、伊丹市バスが無料になる特別乗車証または福祉タクシーの基本料金を助成するタクシー利用券を交付 (交付人数：市バス特別乗車証29,062人・タクシー利用券1,562人)	引き続き、高齢者や障がい者等に対して、伊丹市バスが無料になる特別乗車証または福祉タクシーの基本料金を助成するタクシー利用券を交付する。	611,045	③ 継続	
36			公共交通事業者／市	市	駅舎・駅周辺道路のバリアフリー化とバリアフリー対応車両の拡充	一定バリアフリー化は完了しており、適切な維持管理が必要となる。 市営バスは、既に全車両ノンステップバスに更新済みで、更新車両が対象となる。 公共交通事業者においては、バリアフリー対応車両の拡充を推進する。	適切な維持管理を実施。	-	○	-
						適切な維持管理を実施	適切な維持管理を実施。	×	③ 継続	
				交通局	駅舎・駅周辺道路のバリアフリー化とバリアフリー対応車両の拡充	一定バリアフリー化は完了しており、適切な維持管理が必要となる。 市営バスは、既に全車両ノンステップバスに更新済みで、更新車両が対象となる。 公共交通事業者においては、バリアフリー対応車両の拡充を推進する。	更新車両4両について、ノンステップバスを導入した。	88,080	○	-
						路線バス全車両のノンステップ化が完了している。	更新車両5両について、ノンステップバスを導入する。	115,600	③ 継続	
				旅客鉄道	西日本駅舎・駅周辺道路のバリアフリー化とバリアフリー対応車両の拡充	一定バリアフリー化は完了しており、適切な維持管理が必要となる。 市営バスは、既に全車両ノンステップバスに更新済みで、更新車両が対象となる。 公共交通事業者においては、バリアフリー対応車両の拡充を推進する。	国の指針を基に、地元自治体の協力を受け、随時設置を行っている。 伊丹市内の2駅は設置済み。	×	○	-
						国の指針を基に、地元自治体の協力を受け、随時設置を行っている。 伊丹市内の2駅は設置済み。	伊丹市内の駅においては、すでに基準を満たしており、今後の計画はなし。車両については、バリアフリー設備の充実も含め、お客様の目線に立って、安心・快適にご利用いただけるような車両の導入を進めていく。	×	③ 継続	

基本戦略２－③ ユニバーサルデザイン(バリアフリー化)の推進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
36			公共交通事業者 / 市	阪急電鉄	駅舎・駅周辺道路のバリアフリー化とバリアフリー対応車両の拡充	一定バリアフリー化は完了しており、適切な維持管理が必要となる。 市営バスは、既に全車両ノンステップバスに更新済みで、更新車両が対象となる。 公共交通事業者においては、バリアフリー対応車両の拡充を推進する。	バリアフリー設備等の適切な維持管理を行った。新たな取組みについては、実施なし。	-	○	
						市内3駅(稲野駅・新伊丹駅・伊丹駅)とも、一定のバリアフリー化は完了。	バリアフリー設備等の適切な維持管理を行う。新たな取組みについて、実施予定なし。	-	③ 継続	
				阪急バス	駅舎・駅周辺道路のバリアフリー化とバリアフリー対応車両の拡充	一定バリアフリー化は完了しており、適切な維持管理が必要となる。 市営バスは、既に全車両ノンステップバスに更新済みで、更新車両が対象となる。 公共交通事業者においては、バリアフリー対応車両の拡充を推進する。	市と当社にて、現状における問題点の情報共有を行っていく。	-	○	
						実施なし	市と当社にて、現状における問題点の情報共有を行う。	-	③ 継続	
				阪神バス	駅舎・駅周辺道路のバリアフリー化とバリアフリー対応車両の拡充	一定バリアフリー化は完了しており、適切な維持管理が必要となる。 市営バスは、既に全車両ノンステップバスに更新済みで、更新車両が対象となる。 公共交通事業者においては、バリアフリー対応車両の拡充を推進する。	一般路線バス(阪神線)において、ノンステップバスを6台導入した(うち4台はワンステップ⇒ノンステップ、2台はノンステップ⇒ノンステップ)	×	○	
						一般路線におけるノンステップバス割合13.1%	一般路線バス(阪神線)において、ノンステップバスを6台導入予定(うち5台はワンステップ⇒ノンステップ、1台はノンステップ⇒ノンステップ)	×	③ 継続	

基本目標 2. 交流を支える公共交通の充実

基本戦略 2-③ ユニバーサルデザイン(バリアフリー化)の推進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 26			公共交通事業者/市	市	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	阪急伊丹駅前の市営バス総合案内板をユニバーサルデザインに対応した総合的な情報を取扱うデジタルサイネージへリニューアルした。	19,440	○	-
						JR伊丹駅構内に市営バス時刻表を表示するデジタルサイネージを1機設置済み	新しい仕組みについては、実施予定なし。	-	③ 継続	
				交通局	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	阪急伊丹駅前市営バス総合案内板を阪急伊丹駅前総合案内版(デジタルサイネージ)としてリニューアルするにあたり、市バス情報を提供した。	×	○	-
						阪急伊丹駅前市営バス総合案内板の経年劣化、システムの老朽化により故障が目立っている。 阪急伊丹駅前案内所職員による、行き先、乗り場案内を行っている。 また、JR伊丹駅においては、観光物産ギャラリーにおいて、バスについての案内等の対応をしていただいている。	コンテンツの更新等があった際には、適宜対応していく。	×	③ 継続	
				西日本旅客鉄道	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいる。	×	○	-
						国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいる。	国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいく。	×	③ 継続	
				阪急電鉄	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	すべてのお客様が利用しやすい情報提供に努めている。	×	○	-
						すべてのお客様が利用しやすい情報提供に努めている。	すべてのお客様が利用しやすい情報提供に努めていく。	×	③ 継続	

基本戦略２－③ ユニバーサルデザイン(バリアフリー化)の推進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 26			公共交通事業者／市	阪急バス	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	実施なし	-	×	
						実施なし	調査研究を行う。	-	① 検討	
				阪神バス	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	各停留所の時刻表にバスロケーションシステムのHPにリンクしたQRコードを掲出し、運行情報や乗り換え情報にアクセスしやすくなるよう改善した。	-	○	デジタルサイネージを設置した場合の維持管理コスト負担
						実施なし	停留所へのデジタルサイネージ設置については、市内の停留所において設置に適した場所等があるか、引き続き検討する。	-	③ 継続	
				エアポート関西	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	改修工事の影響により乗り換え動線が変更となった箇所については、視認性を優先させた仮設サインの設置などをすすめた。また、先行オープンした中央エリアには到着ロビーなどにデジタルサイネージの設置を計画し、情報提供ができるよう調整をすすめた。	×	○	
						空港館内全体において、多言語化やユニバーサルデザインを活用したサイン表示を実施。到着ロビーにおいては、デジタルサイネージを利用した地上交通機関への乗り換え情報の充実を図った。	平成30年度も改修工事の進捗に合わせて、サインやデジタルサイネージの設置を行うとともに、先行オープン後の状況なども参考に引き続き仮設サインなどを設置することで、工事により利便性が低下しないよう、空港全体のサインの検討を行う。	×	③ 継続	

基本戦略２－④ 公共交通の利用促進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
37	a	○	公共交通事業者／市	市	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	実施なし	-	×	
						実施なし	モビリティ・マネジメントについて、調査研究を行う。	-	① 検討	
				交通局	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	5月の緑化フェアへ参加した。9月のスルツとKANSAIバスまつりは悪天候により中止となった。 ※緑化フェアについて、費用対効果を踏まえた内容と人員配置へと変更した。わくわくミニフェア(イオンイベント)については、その内容と効果を精査した結果、実施を見送った。	×	○	各イベントを通じて、市バス利用促進に結びつけられるかが課題。
						5月の緑化フェア、9月のスルツとKANSAIバスまつり、10月のわくわくミニフェア(イオンイベント)へ参加。	5月の緑化フェアへ参加、9月のスルツとKANSAIバスまつりへ参加予定。	×	③ 継続	
				西日本旅客鉄道	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	国や各自治体、沿線住民の皆様の活動に協力した。(交通政策に関する協議会などに参加)	×	○	
						国や各自治体、沿線住民の皆様の活動に協力している。(交通政策に関する協議会などに参加)	国や各自治体、沿線住民の皆様の活動に協力していく。(交通政策に関する協議会などに参加)	×	③ 継続	
				阪急電鉄	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	引続き、阪急伊丹駅、新伊丹駅に駐輪場を設置(有料)し、自転車と公共交通の利用促進を図った。	×	○	
						阪急伊丹駅、新伊丹駅に駐輪場を設置(有料)し、自転車と公共交通の利用促進を図っている。	阪急伊丹駅、新伊丹駅の駐輪場を継続して運営し、自転車と公共交通の利用促進を図っていく。	-	③ 継続	
				阪急バス	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	市と当社で協力しながら、当社沿線の学校で希望する学校があれば、実施に向け検討していく。	-	○	
						実施なし	市と当社で協力しながら、当社沿線の学校で希望する学校があれば、実施に向け検討する。	-	① 検討	

基本戦略 2-④ 公共交通の利用促進

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費 (千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算 (千円)	平成30年度施策の方向性	
37	a	○	公共交通事業者/市	阪神バス	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	伊丹市内では実施なし	-	×	
						実施なし	市内で実施可能な地域等があるか、行政の協力も得ながら、引き続き検討していく。	-	① 検討	
				エアポート関西	モビリティ・マネジメント※の実施(住民、企業、学校、転入者等)	「ノーマイカーデー」の参加推進や、地域協働による「のりものゲーム」等を学校で教材として利用し、住民一人ひとりや社会全体で望ましい移動のあり方について考え、環境や健康に配慮して自転車や公共交通利用へ転換を図る。	・改修工事のため社会見学実施なし ・空の日(10月14日実施)来場者約1.1万人 ・ウォーキングイベント(3月10日実施) ・大阪国際空港内に、原則として空港従業員対象に設けていた仮設駐輪場(無料)を廃止し、誰でも利用できる駐輪場・バイク置場(有料)を設置した。	×	○	-
						・小学生社会見学 21校 1,605人参加 ・空の日(9月28日実施) 来場者約30,000人 ・ウォーキングイベント(11月26日実施) 203人参加	・改修工事中につき社会見学未定 ・空の日(10月中旬開催予定) ・ウォーキングイベント(3月中旬実施予定)	×	③ 継続	
38	○	市	市	市	公共交通事業者への市内観光イベントの情報提供および各種イベント会場までの公共交通を利用したアクセス方法の情報提供	各種、イベント主催者、会場となる施設と連携した情報提供を検討する。 「清酒発祥の地 伊丹」の中心市街地に展開する多種多様な飲食店を巡る食べ歩き・飲み歩きイベントや、「いたみ花火大会」「いたみまちなかバル」などの情報誌への掲載を検討する。	イベント参加時に公共交通機関を利用してもらえるように、公共交通事業者が持つ広告媒体へイベント情報及びアクセス方法を掲載してもらえるよう働きかけを行った。	×	○	-
						各種イベント案内に、公共交通を利用したアクセス方法の情報を掲載した。	バル実行委員会、市交通局等との調整により、5月19日開催の第18回伊丹まちなかバルにおいて、大人1人100円で市バスの乗車ができる「優待割引乗車券」をチケットに付け、利用促進を図った。第19回以降も実施していく予定。	×	③ 継続	
39	○	公共交通事業者/市	交通局	バス	バスの乗り方教室やバス車内に児童の絵画を展示	運転手によるバス車両を持ち込んでの、乗り方やマナーの実演講座や、イベントで描いていただいたぬり絵のバス車内展示を実施する。	出前講座を実施し、市内12の小学校で1,408名が参加した。 ※緑化フェアの実施内容の変更、わくわくミニフェア(イオンイベント)の実施を見送ったことから、ギャラリーバスの運行も見送った。	×	○	出前講座を経験してもらった後、いかに将来の利用者となってもらえるか。
						・出前講座を実施し、市内12の小学校で1,392名、1高等学校で140名の合計1,532名の参加。 ・緑化フェアとわくわくミニフェア(イオンイベント)で子どもたちが描いたぬり絵をバス車内に展示したギャラリーバスの運行。	引き続き、市内の小学校1・2年生を対象にバスの乗車マナー等を学ぶ出前講座「気がつくキッズ」を開催予定。 道路幅員が狭いといった立地上の理由で、バス車両が通行ができず実施ができない学校への対応方法として、屋内での実施が可能なプログラムを検討する。	×	③ 継続	

基本戦略２－④ 公共交通の利用促進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
39		○	公共交通事業者／市	阪急バス	バスの乗り方教室やバス車内に児童の絵画を展示	運転手によるバス車両を持ち込んでの、乗り方やマナーの実演講座や、イベントで描いていただいたぬり絵のバス車内展示を実施する。	市と当社で協力しながら、当社沿線の学校で希望する学校があれば、実施に向け検討していく。	-	○	
						実施なし	市と当社で協力しながら、当社沿線の学校で希望する学校があれば、実施に向け検討する。	-	①検討	
				阪神バス	バスの乗り方教室やバス車内に児童の絵画を展示	運転手によるバス車両を持ち込んでの、乗り方やマナーの実演講座や、イベントで描いていただいたぬり絵のバス車内展示を実施する。	伊丹市内では実施なし	-	×	
						実施なし	市内で実施可能な学校等があるか、行政の協力も得ながら、引き続き検討していく。	-	①検討	
40		○	市	交通局	市バスオリジナルグッズの製作・販売	オリジナルグッズにより、地域の公共交通をより身近に感じてもらう、親しみを持ってもらう。	H24年度に製作の、①マフラータオル②ジャガードタオルをはじめ、③クラブバスラマ④オリジナル缶バッジ⑤スルッとKANSAIミニ文具セットを販売。	×	○	現在、④オリジナル缶バッジの販売をイベント時のみ行っており、常時販売してほしいとの要望があるが、販売体制の部分で難しい点がある。
						H24年度に製作の、①マフラータオル②ジャガードタオルをはじめ、③クラブバスラマ④オリジナル缶バッジ⑤スルッとKANSAIミニ文具セットを販売。	①マフラータオル②ジャガードタオル③クラブバスラマ④オリジナル缶バッジ⑤スルッとKANSAIミニ文具セットを販売予定。市バス70周年に向けて、新たなグッズの製作を検討する。	×	③継続	
再掲 35		○	市	市	高齢者、障がい者等の公共交通運賃減免や高齢者バスの維持【再掲】	高齢者・障がい者等に市バスの無料乗車証および福祉タクシーの基本料金を助成するタクシーチケットを交付し、外出支援および経済的負担軽減を行う。	引き続き、高齢者や障がい者等に対して、伊丹市バスが無料になる特別乗車証または福祉タクシーの基本料金を助成するタクシー利用券を交付。 (交付人数：市バス特別乗車証31,485人・タクシー利用券1,492人)	610,714	○	
						高齢者や障がい者等に対して、伊丹市バスが無料になる特別乗車証または福祉タクシーの基本料金を助成するタクシー利用券を交付 (交付人数：市バス特別乗車証29,062人・タクシー利用券1,562人)	引き続き、高齢者や障がい者等に対して、伊丹市バスが無料になる特別乗車証または福祉タクシーの基本料金を助成するタクシー利用券を交付する。	611,045	③継続	
41			商業事業者／市	市	商業事業者と連携したサービスの導入	商業事業者と連携した公共交通利用者に対するサービスの導入等により、公共交通利用促進の取り組みを行う。	昨年度に引き続き、市交通局では、市営バスICカード『itappy（イタッピー）』を提携店舗や施設で提示すると、通常価格からの割引やサービスを何度でも受けることができる取組みを実施した。	-	○	
						市交通局では、市営バスICカード『itappy（イタッピー）』を提携店舗や施設で提示すると、通常価格からの割引やサービスを何度でも受けることができる取組みを実施するとともに、市商業者と連携した公共交通利用者に対する更なるサービスの導入等に向けて、検討を行う。	引き続き、市営バスICカード『itappy（イタッピー）』を提携店舗や施設で提示すると、通常価格からの割引やサービスを何度でも受けることができる取組みを実施するとともに、市商業者と連携した公共交通利用者に対する更なるサービスの導入等に向けて、検討を行う。	×	③継続	

基本目標 2. 交流を支える公共交通の充実

基本戦略 2-④ 公共交通の利用促進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 33			市	市	市営バスへの運営支援のあり方の検討【再掲】	今後も路線を維持していくために必要な支援のあり方を検討する。	補助基準に基づき補助を実施。 ・営業係数125以上の不採算路線については収支不足額の1／2を一般会計から補助。 また、補助基準の見直しを行った。 平成29年度 117,888千円	117,888	○	
						補助基準に基づき補助を実施。 ・営業係数125以上の不採算路線については収支不足額の1／2を一般会計から補助 平成26年度 126,190千円	民営バス事業者が市営バスの系統を運行するとしても、赤字となる系統の経常収支差額を補助する新しい補助基準に基づき、補助を実施する。 平成30年度 143,880千円	143,880	③ 継続	
42			市	市	インバウンド※対策を含むわかりやすい情報提供の充実	定時性や二酸化炭素排出量が少ないことなどをPRL、公共交通の利用を促進し、増加が予想される外国人旅行者向けに、多言語による表記やサインや広報媒体による情報提供を行う。	実施なし	-	×	
						実施なし	インバウンド対応を含む、公共交通のわかりやすい情報提供のあり方について、調査・研究を行う。	-	① 検討	
43			市 / 公共交通事業者	市	鉄道とバスや、バスとバスでの乗継割引制度の維持と検討	各公共交通事業者と連携し、乗継割引制度の導入について検討する。市営バスについては現行の乗継割引を維持しつつ、より利用しやすい制度を検討する。	実施なし	-	×	
						各公共交通事業者と連携した乗継割引制度は実施していない。市営バスについては、乗継割引を実施。	各公共交通事業者と連携した乗継割引制度の導入に向けて検討を行う。	-	① 検討	
			交通局		鉄道とバスや、バスとバスでの乗継割引制度の維持と検討	各公共交通事業者と連携し、乗継割引制度の導入について検討する。市営バスについては現行の乗継割引を維持しつつ、より利用しやすい制度を検討する。	新たな取り組みなし。市営バスについては、乗継割引を引続き実施。	×	○	スルッとKANSAIとの連携に係る調整の部分で難しい点がある。
						各公共交通事業者と連携した乗継割引制度は実施していない。市営バスについては、乗継割引を実施。	各公共交通事業者と連携した乗継割引制度の導入に向けて検討を行う。	×	③ 継続	

基本戦略２－④ 公共交通の利用促進

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
43			市/ 公共 交通 事業者	旅 客 鉄 道	西 日 本 鉄 道 とバスや、バスとバス での乗継割引制度の維持と検討	各公共交通事業者と連携し、乗継割引制度の導入について検討する。市営バスについては現行の乗継割引を維持しつつ、より利用しやすい制度を検討する。	導入なし	-	×	
						導入なし	導入する予定なし	-	⑦ 見直 し	
				阪 急 電 鉄	鉄 道とバスや、バスとバス での乗継割引制度の維持と検討	各公共交通事業者と連携し、乗継割引制度の導入について検討する。市営バスについては現行の乗継割引を維持しつつ、より利用しやすい制度を検討する。	・自社グループ発行のクレジット一体型PiTaPa(現Stacia PiTaPa)を対象として、土日祝の同一日にPiTaPa機能で電車※とバス※を2回ずつ利用いただくと、Sポイントを100ポイント(100円相当。小児は半分。)付与した。 ※阪急電鉄、阪神電気鉄道、能勢電鉄、北大阪急行電鉄、北神急行電鉄、阪急バス、阪神バス、阪急田園バス ・年度における総適用件数 318,688件 ・年度における当社分担費 19,766千円	19,766	○	-
						・2006年から、自社グループ発行のクレジット一体型PiTaPa(現Stacia PiTaPa)を対象として、土日祝の同一日にPiTaPa機能で電車※とバス※を2回ずつ利用いただくと、Sポイントを100ポイント(100円相当。小児は半分。)付与する。 ※阪急電鉄、阪神電気鉄道、能勢電鉄、北大阪急行電鉄、北神急行電鉄、阪急バス、阪神バス、阪急田園バス ・年度における総適用件数 264,865件 ・年度における当社分担費 17,837千円	・自社グループ発行のクレジット一体型PiTaPa(現Stacia PiTaPa)を対象として、土日祝の同一日にPiTaPa機能で電車※とバス※を2回ずつ利用いただくと、Sポイントを100ポイント(100円相当。小児は半分。)付与する。 ※阪急電鉄、阪神電気鉄道、能勢電鉄、北大阪急行電鉄、北神急行電鉄、阪急バス、阪神バス、阪急田園バス	20,000	③ 継 続	
				阪 急 バ ス	鉄 道とバスや、バスとバス での乗継割引制度の維持と検討	各公共交通事業者と連携し、乗継割引制度の導入について検討する。市営バスについては現行の乗継割引を維持しつつ、より利用しやすい制度を検討する。	hanica定期券による阪神バスとの相互利用や、阪急阪神グループ内のバス・鉄道をグループカード(STACIA PiTaPa)で同一日に利用した場合の乗り継ぎポイント付与施策(一定の条件あり)など、これまでに提供している施策については、継続して実施した。	×	○	-
						平成24年度に阪神バスと共同でICカード「hanica」を導入しており、チャージ額に対して10%のプレミアを付与している。	現在提供している施策については継続して実施していく。さらなる制度の拡充については慎重に検討していく。	×	③ 継 続	

基本目標 2. 交流を支える公共交通の充実

基本戦略 2-④ 公共交通の利用促進

整理番号	重点施策	早期着手施策	実施主体	報告者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度事業費 (千円)	平成29年度進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度予算 (千円)	平成30年度施策の方向性	
43			市 / 公共交通事業者	阪神バス	鉄道とバスや、バスとバスでの乗継割引制度の維持と検討	各公共交通事業者と連携し、乗継割引制度の導入について検討する。市営バスについては現行の乗継割引を維持しつつ、より利用しやすい制度を検討する。	hanica定期券による阪急バスとの相互利用や、阪急阪神グループ内のバス・鉄道をグループカード(STACIA PiTaPa)で同一日に利用した場合の乗り継ぎポイント付与施策(一定の条件あり)など、これまでに提供している施策については継続して実施した。	×	○	ポイント付与等ではなく、実際の乗り継ぎ割引運賃を設定する場合には、原資負担の問題等が大きい。
						平成24年度に阪急バスと共同でICカード「hanica」を導入しており、チャージ額に対して10%のプレミアを付与している。	現在提供している施策については継続して実施していくが、さらなる制度の拡充については慎重に検討していく。	×	③ 継続	
44			市	市	自転車におけるエコ通勤優良事業所認定制度の創設や公共交通顕彰制度の創設(エコ通勤優良事業所認定制度登録支援)	自転車におけるエコ通勤優良事業所認定制度の創設やエコ通勤優良事業所認定制度登録について支援を検討する。	実施なし	-	×	-
						実施なし	自転車におけるエコ通勤優良事業所認定制度の創設や公共交通顕彰制度の創設(エコ通勤優良事業所認定制度登録支援)について、調査・研究を行う。	-	① 検討	

基本目標３．中心市街地の回遊性とにぎわいの向上

基本戦略３－① 中心市街地回遊性の向上

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
46	a		市	市	中央伊丹線のフルモール 化の検討	(都)中央伊丹線について、地域の合意形成を図りながら実施につ いて検討する。	実施なし	-	×	
						実施なし	計画内で示されている通りの中央伊丹線のフルモール化は実施 困難なため、後期着手に向け、内容の精査を行う。	-	⑦ 見直 し	
47	b		市	市	無電柱化による快適な歩 行空間の整備	道路の電柱をなくし電線等を地下等にまとめて収容することで、安 全で快適な歩行空間を確保する。 都市計画道路※整備事業と併せて検討する。 中心市街地の4極2軸路線は、伊丹酒蔵通りをはじめ景観重点地 区に指定されており、地域及び電線管理者の合意形成を図りなが ら実施に向けて協議する。	市道宮ノ前4085線外3路線電線共同溝整備事業の設計を実施 した。	11,059	○	-
						実施なし	市道宮ノ前4085号線の整備を実施する。	30,400	③ 継続	
48			市	市	超小型モビリティ※のレン タル利用の導入検討	JR伊丹駅および阪急伊丹駅周辺にポートを設置し、クルマの通行 を抑制し、レンタルモビリティで両駅間を行き来してもらい、中心市 街地の活性化につなげる。	実施なし	-	×	-
						実施なし	中央伊丹線のフルモール化の検討に併せて、導入可能なモビリ ティについて、検討する。	-	⑦ 見直 し	
49			市	市	自転車押し歩き区間の設 定	自転車の押し歩き区間を設定し、歩行者通行空間を整備する。	伊丹警察署と連携し、押し歩き推奨の街頭啓発活動を行った。	×	○	-
						実施なし	伊丹警察署と連携し、押し歩き推奨の街頭啓発活動を行う。	×	③ 継続	

基本戦略３－② 空港を活かしたまちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
51	a	○	市	市	JR伊丹駅および阪急伊丹駅と伊丹空港を結ぶバスの利便性向上(「伊丹空港ライナー」の運行)とPR	鉄道駅、バスターミナルのインバウンド※対策として乗り場案内、時刻表等を示し、バス停の案内についてもわかりやすい表示に改良する。 空港利用者にとって利便性の高い車両によってJR伊丹駅および阪急伊丹駅と空港を結ぶことにより、周辺地域のにぎわいづくりにつなげる。	空港アクセスバスのPRとして、下記の事項を実施した。また、空港アクセスバスの利用実態調査を実施し、利用者ニーズの把握・分析を行った。 ①ラッピングした市営バスの運行 ②JR・阪急伊丹駅周辺の歩道橋への横断幕設置 ③市バスへの前幕設置 ④オリジナル絆創膏の作成、配布 ⑤ポケット時刻表の配付	1,242	○	-
						空港アクセスバスのPRとして、下記事項を実施した。 ①ラッピングした市営バスの運行 ②潜在的な需要が見込まれる尼崎市北部等へのチラシ・ポスターの配布 ③新関西国際空港株式会社と連携して、空港ターミナル内へポスターを掲示	利用実態調査に基づき、効果的な空港アクセスバスのPRを行う。また、「伊丹空港ライナー」の運行について検討する。	1,245	③ 継続	
52		○	県 / 市	県 / 市	空港利用者に対する伊丹市の魅力発信	県と市で協力して、ターミナル改修後に地元PRコーナーの確保を働きかける。	引き続き、空港運営事業者により地元PRコーナーとして、大阪国際空港南北ターミナル1階総合案内所横(計2か所)にPRパンフレット用ラックを無償にて設置。 平成30年4月からの運用に向けて、中央エリア2階に県観光・物産情報コーナー「INFORMATIONひょうご・関西」が整備された。	-	○	-
						空港運営事業者により地元PRコーナーとして、大阪国際空港南北ターミナル1階総合案内所横(計2か所)にPRパンフレット用ラックを無償にて設置(平成26年7月1日より設置)。	引き続き、空港運営事業者により地元PRコーナーとして設置された大阪国際空港南ターミナル1階団体カウンター横のPRパンフレット用ラック、加えて、中央エリア2階の県観光・物産情報コーナーを活用して市の情報発信を行う。	-	③ 継続	
再掲 26			公共 交通 事業 者 / 市	市	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	阪急伊丹駅前の市営バス総合案内板をユニバーサルデザインに対応した総合的な情報を取扱うデジタルサイネージへリニューアルした。	19,440	○	-
						JR伊丹駅構内に市営バス時刻表を表示するデジタルサイネージを1機設置済み	新しい仕組みについては、実施予定なし。	-	③ 継続	

基本戦略３－② 空港を活かしたまちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 26			公共交通事業者／市	交通局	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	阪急伊丹駅前市営バス総合案内板を阪急伊丹駅前総合案内版(デジタルサイネージ)としてリニューアルするにあたり、市バス情報を提供した。	×	○	
						阪急伊丹駅前市営バス総合案内板の経年劣化、システムの老朽化により故障が目立っている。 阪急伊丹駅前案内所職員による、行き先、乗り場案内を行っている。 また、JR伊丹駅においては、観光物産ギャラリーにおいて、バスについての案内等の対応をしていただいている。	コンテンツの更新等があった際には、適宜対応していく。	×	③ 継続	
				旅客鉄道	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいる。	×	○	
						国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいる。	国内外の全てのお客様が便利・快適に当社をご利用いただけるよう、随時、駅や車両の改良に取り組んでいく。	×	③ 継続	
				阪急電鉄	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	すべてのお客様が利用しやすい情報提供に努めている。	×	○	
						すべてのお客様が利用しやすい情報提供に努めている。	すべてのお客様が利用しやすい情報提供に努めていく。	×	③ 継続	
				阪急バス	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	実施なし	-	×	
						実施なし	調査研究を行う。	-	① 検討	
				阪神バス	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	各停留所の時刻表にバスロケーションシステムのHPにリンクしたQRコードを掲出し、運行情報や乗り換え情報にアクセスしやすくなるよう改善した。	-	○	デジタルサイネ-ジを設置した場合の維持管理コスト負担
						実施なし	停留所へのデジタルサイネージ設置については、市内の停留所において設置に適した場所等があるか、引き続き検討する。	-	③ 継続	

基本戦略３－② 空港を活かしたまちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
再掲 26			公共交通事業者／市	エ ア ポ ー ト 関 西	乗換案内等の充実(デジタルサイネージ※の設置等)【再掲】	外国人観光客向けのサイン表示や、高齢者・障がい者にも利用しやすいデジタルサイネージ等を利用した乗り換え情報の充実を図る。	改修工事の影響により乗り換え動線が変更となった箇所については、視認性を優先させた仮設サインの設置などをすすめた。 また、先行オープンした中央エリアには到着ロビーなどにデジタルサイネージの設置を計画し、情報提供ができるよう調整をすすめた。	×	○	
						空港館内全体において、多言語化やユニバーサルデザインを活用したサイン表示を実施。到着ロビーにおいては、デジタルサイネージを利用した地上交通機関への乗り換え情報の充実を図った。	平成30年度も改修工事の進捗に合わせて、サインやデジタルサイネージの設置を行うとともに、先行オープン後の状況なども参考に引き続き仮設サインなどを設置することで、工事により利便性が低下しないよう、空港全体のサインの検討を行う。	×	③ 継続	
53			市	市	企業立地支援制度の推進	地域産業の基盤強化や市民の雇用機会の創出のため、市内への企業誘致や支援に取り組む。	中小企業支援や企業の市内定着を目指し、面積要件の撤廃や小規模企業枠の追加等の対象要件の拡大、転入奨励金の新設等奨励措置の拡充等を盛り込んだ企業立地支援条例改正案を6月議会へ提案した。 改正後、29年度は5件を認定した。	30,260	◎	
						平成21年度は4件、平成22年度は3件、平成23年度は4件、平成24年度は1件を認定した後、平成25、26年度は0件で制度利用が無い状況が続いた。	29年6月に改正した企業立地支援制度の利用促進を図る。	33,571	③ 継続	
54			市	市	観光施策と連携した利用促進	市内の地域資源を活かし、滞在型観光の強化を進める。	・阪急伊丹駅前市営バス総合案内板をデジタルサイネージを使いリニューアルした。 ・引き続き、伊丹を歩こうワンダーウォーキング、阪急・阪神沿線観光あるきをはじめとした事業において、市の自然や歴史を楽しむ街歩きコースを紹介した。また、兵庫県等と共同で行う観光キャンペーン等においては、観光客に対して、自然や歴史を紹介するとともに、伊丹まちなかバルや宮前まつり等中心市街地の大規模イベントのPRを積極的に行った。また、兵庫県阪神北県民局管内の4市1町で「サイクルエリアマップ」を新たに作成し、サイクリングロードをPRした。	20,296	○	市外からの観光客を更に増やしていくための方策
						伊丹を歩こうワンダーウォーキング、阪急・阪神沿線観光あるきをはじめとした事業において、市の自然や歴史を楽しむ街歩きコースを紹介した。また、兵庫県等と共同で行う観光キャンペーン等においては、観光客に対して、自然や歴史を紹介するとともに、伊丹まちなかバルや宮前まつり等中心市街地の大規模イベントのPRを積極的に行った。	・デジタルサイネージで観光情報を提供し、インバウンド対応として多言語(日本語・英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語)での表示を行う。 ・これまでのワンダーウォーキングや観光あるき、観光キャンペーンに加え、昨年度に作成した「サイクルエリアマップ」を活用したPRを行うとともに、中心市街地での各種イベントを引き続き実施する。	856	③ 継続	

基本戦略３－③ 中心市街地における自転車等の放置の防止

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実 施 主 体	報 告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
55	a	○	市	市	地下(地上)ハイテク駐輪場の整備	JR伊丹駅周辺において、地下ハイテク駐輪場を整備するとともに、他にも整備可能な場所がないか検討する。	伊丹機械式自転車駐車場の整備を完了した。	150,180	○	
						実施なし	他の整備可能な場所について、検討する。	-	① 検討	
56	b	○	県/ 市	県/ 市	既存施設を活用した駐輪場整備や機械式路上駐輪場(路上駐輪ラック)の設置	阪急伊丹駅周辺駐輪対策として、ペDESTリアンデッキ等既存施設を活用した駐輪場整備を検討する。 阪急伊丹駅及びJR伊丹駅周辺において機械式路上駐輪場を設置し、買い物客など短時間駐輪する場合の利便性向上を図る。また、県道に対しても県と連携して、機械式路上駐輪場の設置をめざす。	◆阪急伊丹駅周辺の駐輪ラックの新設 ・駅東側(中央1丁目1番地) 46台新設 ・新設にあたり防火水槽等改修工事	3,882	○	-
						実施なし	平成29年度以降、県道周辺地域の放置自転車台数が一定数減少していることから、宝塚土木事務所との協議も踏まえ、機械式路上駐輪場の設置については、今後の周辺地域の放置自転車状況を勘案しながら、必要性に応じて検討を行うこととする。	8	① 検討	
57		○	市	市	撤去手数料の適正化、撤去時間の延長、ランダム化による規制強化	放置自転車に対する規制の強化を行う。	撤去強化期間を設け、啓発を実施。また、平日日中以外の撤去を定期的を実施した。	×	○	-
						実施なし	平日日中以外の撤去を定期的を実施する。	×	③ 継続	
再掲 2		○	市	市	既存駐輪場の再整備【再掲】	利用しやすい駐輪場として再整備し、自転車利用者の自律を促す。	東有岡自転車駐車場及び船原自転車駐車場において二段式ラック更新工事を実施した。	46,142	○	-
						・阪急伊丹駅前地下自転車駐車場管理機器更新工事 ・JR伊丹駅前第1自転車駐車場ラック更新工事	実施予定なし	-	③ 継続	
58		○	市	市	放置自転車防止のための啓発の充実	駐輪指導員の指導時間を延長する。 路上にサインを貼付し、放置を防止する。	ハイテク駐輪場の運用開始に先立って、JR伊丹駅周辺の駐輪指導時間の見直しを行った。	26,389	○	-
						実施なし	前年度に引き続き駐輪啓発指導を行う。	26,092	③ 継続	

基本目標 3. 中心市街地の回遊性とにぎわいの向上

基本戦略 3-③ 中心市街地における自転車等の放置の防止

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
59		○	市	市	自転車利用者の自律を 促す料金政策の実施	市営自転車駐車場の利用者に、利用料金の一定額を地域通貨「いたポ」として付与し、加盟店での買い物に利用してもらい、放置自転車対策と中心市街地活性化を図る。	市営自転車駐車場におけるポイント発行数 →718,016ポイントで、当初の予定を下回った。	2,051	△	-
						実施なし	ポイント発行対象を拡大することで、新規ユーザーを確保し、制度普及を目指す。 ・市営自転車駐車場におけるポイント予定数 →3,370,000ポイント	4,763	④ 拡大	

基本目標４． 地域でつくる交通まちづくり

基本戦略４－① 地域でつくる交通まちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
60		○	市	市	交通について市民が主体的に考える場の設立および継続運営	市バスモニター制度※を維持・拡充するとともに、主体的に伊丹市の望ましい交通について検討し、実践していこうとする住民や団体に対して、活動団体の設立支援や運営支援を行う。	新たな取り組みなし	-	○	
						市バスモニター制度を維持	市バスモニター制度を維持するとともに、主体的に伊丹市の望ましい交通について検討し、実践していこうとする住民や団体に対する、活動団体の設立支援や運営支援の方法について、調査・研究する。	-	① 検討	
61		○	市 / 民間 事業者	市	民間事業者との連携による交通安全教室等の拡充	楽しみながら交通安全の意識の浸透を図ることを目的とし、秋の交通安全運動期間に交通安全の啓発をテーマとしたイベントを開催する。	秋の交通安全フェスタinいたみ2017を実施 日時:9/23(土・祝)10時～15時 場所:阪神自動車学院	380	○	-
						秋の交通安全フェスタinいたみ2014を実施 日時:9/21(日)10時～15時 場所:阪神自動車学院 来場者数:4,000人	秋の交通安全フェスタinいたみ2018を実施予定 日時:9/23(日・祝)10時～15時 場所:阪神自動車学院	381	③ 継続	
62		○	警察 署/ 交通 事業者/ 市	市	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	交通安全教室等で制度の周知を図った。また、阪神交通安全対策協議会より阪急バス株式会社へ、公共交通利用助成の実施を働きかけた。	×	○	-
						【公共交通機関の助成制度】 市バス特別乗車証(高齢者無料バス):対象70歳以上の市民	交通安全教室等様々な機会を捉えて、制度の周知を図る。また、阪神交通安全対策協議会より、継続して、各公共交通事業者へ、公共交通利用助成とその維持、拡充を働きかける。	×	③ 継続	
				交通 局	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	実施なし。	×	×	-
						実施なし。	各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	×	① 検討	

基本目標 4. 地域でつくる交通まちづくり

基本戦略 4-① 地域でつくる交通まちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
62		○	警察署 / 交通事業者 / 市	警察署	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	・警察官が高齢者宅を訪問する「ホットあんしん訪問活動」や交通課が行う高齢者に対する交通安全教育の場において、免許返納に関する周知を図った。 ・警察署の免許窓口で運転免許証の返納に関する相談に訪れた高齢者に、免許返納制度について詳細な説明を実施した。 ・従来の免許返納に関する周知活動に加え、高齢者利用施設や高齢者クラブを訪問し、多人数の高齢者に直接免許返納に関する周知を呼びかけた。	×	○	運転免許証の返納は、あくまでも交付を受けた個人が返納する。
						・警察官が、高齢者宅を訪問する「ホットあんしん訪問活動」や、交通課が行う高齢者に対する交通安全教育の場において、免許返納に関する周知を図っている。 ・警察署の免許窓口で運転免許証の返納に関する相談に訪れた高齢者に、免許返納制度について詳細な説明を行っている。	・継続実施している「ホットあんしん訪問活動」や、高齢者が利用するサロン等において、交通安全啓発と免許返納に関する周知を図っていく。 ・警察署の免許窓口で住所変更等の手続きに訪れた高齢者に、免許返納制度について詳細な説明を行っている。 ・随時、阪神運転免許更新センターに免許更新手続きで訪れた高齢者に対して、免許返納制度について説明し、周知を図っていく。 ・交通事故等で運転に危険性が認められる高齢者に対しては、自宅訪問、個々面談して免許返納を説明している。	×	③ 継続	
				旅客鉄道	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	免許返納者や高齢者への助成として、ICOCAカードを交付する取り組みをすすめている。	×	×	伊丹市専用ICOCAの場合、30,000枚(@2,000円以上)が最低ロット。 ※周辺自治体との共有ICOCAの場合は全体で30,000枚
						免許返納者や高齢者への助成として、ICOCAカードを交付する取り組みをすすめている。	免許返納者や高齢者への助成として、ICOCAカードを交付する取り組みをすすめていく。	×	③ 継続	
				阪急電鉄	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	このような取り組みについて、伊丹市等からポスター掲出の依頼があれば、スペース等の都合があれば、駅の公報パネルへ掲出に向けて検討する。	-	×	-
						実施なし	このような取り組みについて、伊丹市等からポスター掲出の依頼があれば、スペース等の都合があれば、駅の公報パネルへ掲出に向けて検討する。	-	① 検討	

基本目標４． 地域でつくる交通まちづくり

基本戦略４－① 地域でつくる交通まちづくり

整理 番号	重点 施策	早期 着手 施策	実施 主体	報告 者	施策	施策概要	平成29年度実施内容	平成29年度 事業費 (千円)	平成29年度 進捗状況	課題等
						計画策定時(平成26年度)の状況	平成30年度実施予定内容	平成30年度 予算 (千円)	平成30年度 施策の 方向性	
62		○	警察署 / 交通事業者 / 市	阪急バス	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	引続き、阪神バスと相互利用可能な高齢者用フリー定期券はんきゅうグランドパス65を販売した。	×	○	-
						高齢者用フリー定期券はんきゅうグランドパス65を平成13年より発売している。	引続き、阪神バスと相互利用可能な高齢者用フリー定期券はんきゅうグランドパス65を販売する。	×	③ 継続	
				阪神バス	免許返納制度の周知・推進(公共交通利用助成の維持・拡充を含む)	免許返納制度による特典を周知することにより、高齢者の自動車事故を防ぐ。 各公共交通事業者と連携し、助成維持と拡充について検討する。	実施済み	×	○	-
						「高齢者運転免許返納割引」として、運転経歴証明書を提示することで半額にて乗車可とする制度を導入済み。 また、「はんしんグランドパス65」として、65歳以上の方に対し、通勤定期券の約半額で定期券をご購入いただけるサービスを導入済み。	継続実施	×	③ 継続	
63		○	市	市	公募型協働事業提案制度※の推進	地域からの提案による放置自転車対策や交通安全教室等を推進する。	平成28年度に引き続き、次の業務を委託した。 ・放置自転車啓発指導事業を伊丹小学校地区自治協議会へ委託 ・青色防犯バトロール事業を泉町シニアクラブおよびシルバー人材センターへ委託	2,203	○	-
						実施なし	・放置自転車啓発指導事業については、業務対象エリアを拡大し、更なる放置自転車の減少に取り組む。 ・青色防犯バトロール事業については、安全・安心見守りネットワークの整備が完了し、街頭犯罪・侵入犯罪認知件数が減少傾向にあることを踏まえ、外部委託を廃止し、所管課職員により臨機応変に実施する。	1,827	③ 継続	

後期で着手する施策

整理 番号	基本戦略	重点施策	施策	施策概要	実施主体
28	2－①		バス乗降場、タクシー乗降場の再配置や福祉車両対応乗降場の設置の検討	高齢者・障がい者等の公共交通機関を利用した移動の利便性の向上を図る。	市
34	2－②		バス優先レーン拡充の検討	市道での該当路線未定。県道等で必要性に応じて県・警察署と連携してバス優先レーンの拡充をめざす。	県 警察署
45	2－④		公共交通利用による公共施設利用料(入館料等)の軽減や公共交通利用促進につながる観光イベント等の実施	各公共交通事業者と利用料割引の導入等について検討する。	市 公共交通事業者
50	3－①		自転車タクシー※の導入の検討	阪急伊丹駅とＪＲ伊丹駅間で導入することを検討する。	市
64	4－①		地元住民によるバス停付近の清掃・緑化等のアダプト制度※の導入の検討	バス停付近の清掃・緑化等のアダプト制度の導入について検討する。	市